

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270101169
法人名	日本海観光株式会社
事業所名	グループホーム 敬愛苑
所在地 (電話番号)	松江市寺町198-57 ポートピア松江ビル4階 (電話) 0852-24-8768

評価機関名	保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(平成21年1月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	R C 造り	
	4 階建ての	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額40000または1日当たり 1340 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月21日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 80.2 歳	最低	65 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科医院 四方歯科医院 松江市立病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松江駅から徒歩5分圏内にあるビルの4階にホームと併設のデイサービスがあり、屋内人工庭園を挟み、地域コミュニティールームが設けられ取り、町内に公民館が無い事から、地域のボランティア活動や公民館活動等交流の場として開放・提供されており、地域内ではホームを認知しているといえる。自治会等に会議の場所を提供して来ている事から、ホームの運営推進会議のメンバーには町内会長や公民館館長、地区社会福祉協議会会長が参加され、自治会との防災協定の申し入れが有り、年末に「防災協定書」が交わされたばかりである。屋内人工庭園には簡易な坂や石像も置かれており、利用者は天気に影響されず、思い思いの距離や速度で散歩を楽しむ姿が見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である、職員の移動等による影響への配慮については、改善取り組み中であり、更なる配慮に努める事に期待したい。プライバシーの確保の徹底についても職員全員で話し合い、改善に向け、取り組み中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の異動や管理者の異動重なり、現場の主任と管理者が話し合い、一部にまとめられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政との話し合いの中で、3~4ヶ月に1回程度開催する事となった。サービスの現状や取り組んでいる事等発表し、生活保護や家族との関わりが困難なケースなど、市役所福祉課の職員を交えてのカンファレンスを実施している。市役所と共に話し合いや相談しながらサービスの質の向上に取り組み、認知症について理解して頂ける場として意見を積極的に聞くよう努められている事が伺えた。自治会との防災協定書の話も、運営推進会議で生まれ、年末に締結した。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回 請求書と共に写真や日頃の活動など状態が一目でわかるような状況報告書と金銭出納帳を家族に送付している。年4回手作りの家族新聞を発行し、職員の異動なども報告している。独居の利用者や遠方に家族がいるケースが多い事もあり、苦情や不安等の意見・希望の抽出が難しい事も伺えた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への参加、保育所との交流、ボランティアによる活動等も、ホーム隣の屋内コミュニケーションルームを開放し、利用・開催される事が多く、地域の人々との交流にも一躍かっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設当初から変わらず、地域の中で暮らし続ける事を支えていくサービスとして、日々のケアや交流に取り組みに努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的にミーティングや勉強会で理念を基に話し合い、実践に取り組んでいる。理念の掲示がしてあり、新人職員にはパンフレットを使用するなどし理念を指導している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加、保育所との交流、ボランティアによる活動等も、ホーム隣の屋内コミュニケーションルームを開放し、利用・開催される事が多く、地域の人々との交流にも一躍かっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果をもとにミーティングで話し合ったり、運営推進会議で議題に取り上げたりして改善にむけ取り組み中である。	○	自己評価については、職員全員で話し合うことにより、日々のケアをより客観的に見つめられる機会として活用されたい。又、個々の改善計画書を作成し、できる事から具体的な改善に取り組んでいかれることを期待しています。改善に向けての意見や見直し等の記録を残し、より計画的、継続的に評価を活かされることを望みます。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政との話し合いの中で、3~4ヶ月に1回程度開催する事となった。サービスの現状や取り組んでいる事等発表し、認知症について理解して頂ける場として意見を積極的に聞くよう努められている事が伺えた。自治会との防災協定書の話も、この会議で生まれ形となり、年末に締結した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護や家族との関わりが困難なケースなど、市役所福祉課の職員を交えてのカンファレンスを実施している。市役所と共に話し合いや相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回 請求書と共に写真や日頃の活動など状態が一目でわかるような状況報告書と金銭出納帳を家族に送付している。年4回手作りの家族新聞を発行し、職員の異動なども報告している。状態変化があるときは、その都度連絡を行っている。受診内容についても変化や、内服変更等あれば連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や希望、不満・苦情を聞き、運営に反映できる様に努力されている。また、面会に来られた時に気軽に言っていただけ様に努めていることが伺えた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービスやユニット間での職員の異動は殆どない。職員の異動や離職の際は、利用者には説明をし理解を求めると共に、馴染みになるような場面を多くし、職員の異動等による影響を最小限に防ぐよう配慮されている。ケース担当の家族には電話でしらせ、面会時には他の家族にも紹介をし馴染みの関係づくりに努めている。		認知症の理解、高齢者の対応、言葉づかい介護技術等指導の継続をされたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修や、同業者との交換研修を受ける機会の確保はされている。また個人的に研修に参加されることも多く、受講可能にする為、勤務調整を行なうなど支援されている。資格取得を管理者は奨励し数人はそれに向け現在も頑張っておられる。	○	地域密着型サービスの質は、非常勤やパート職員も含む個々の職員の質によって成り立っています。運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、具体化した方針を示し、職員全員が働きながら研修やトレーニングできるように早急に取り組まれることを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の事業所等の管理者との話し合いや意見交換の機会がもてるようになった。相互研修についても定期的に交流が持てるようこれから計画中との事である。		他のグループホーム見学、訪問・交流の機会を作るなど、サービスの質の向上の取り組んでいかれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が事前訪問し、情報の収集を行いながら関係を深め、本人や家族に対し、利用前のホーム見学を勧め、職員と顔なじみの関係を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	無理強いせず、利用者のペースに合わせ、話し相手や傾聴し、職員は利用者サービスを提供させているという気持ちを忘れず、利用者と共に過ごし、学び支えあう姿勢を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向を把握することを大切にし、日々のケアに努めている。意思表示困難な利用者に対しても把握しようと努力し、意向や希望の把握が本人本位になるよう検討されている事が伺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を抽出し、かかりつけ医の医学的な助言をいただき、関係者と話し合いや調整を行ないそれを介護計画に反映させて利用者本意の計画作成がなされている。	○	介護計画に沿って日々のケアはされているが、各支援課題の実施状況の記録の整備に努めて頂きたい。また、途中変更があるとき、更新時等の計画作成を関係者と話し合い作成を充実されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリング(分析・評価)を行ない介護計画の見直しを作成している。変化が生じた場合は関係者の意見を取りまとめミーティングを行い、現状に即した新たな計画でケアを実行している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ通院や特別な外出などの対応に柔軟な支援をするよう努めている。入院中の面会や早期の退院支援等も積極的に行われている事が聞き取りで確認できた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医や主治医への受診・往診の支援を行っている。医師との連絡や連携も密にされており、訪問当日も2箇所から往診の医師が来られていた。結果等に関して、随時家族へ連絡されていることが確認できた。急変時はかかりつけ医、緊急搬送先で対応できるよう連絡体制も確立されている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	歳を重ねるごとに、利用者の介護度状況が重度化しつつあり、終末期等に関しても、管理者は家族・かかりつけ医等関係者と話し合い、本人・家族の希望に添えるよう、全員で支援の方針を共有できるようにしている。文章的なものは無いが、法人は「利用者本位に支援が出来れば・・・」と方針を管理者・職員に伝えている事が伺えた。		重度者、終末期のケアの勉強会を行い、十分な体制、対応作りに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問当日は、利用者のプライドを傷つけるような声かけや対応は見受けられなかった。記録も事務所に置かれており、各職員が事務所で記録をしていた。個人情報の取り扱いにも配慮がなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望や意向を第一に考え、一人ひとりのペースを尊重し、ケアに努めている。訪問当日も屋内庭園で散歩を楽しんだり、併設のデイサービスにお友達に会いに行くなど、思い思いに過ごされている事が確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状況に合わせた食事形態となっている。また、本人の有する能力に合わせた食事の補助器具も提供されている。職員が同じテーブルに着き、一緒に食事摂りながら、さり気無く、食べこぼし等のケアが提供されていた。		食事の時、利用者と職員の会話が殆どなかった。会話を楽しみながら食事が出来るよう支援されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については基本的に一日おき等で対応されている。毎日の入浴希望がある方や、時間帯についても、臨機応変に対応ができる体制になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	戸締りや洗濯物たたみ・食器洗い・下膳等一人ひとりの役割や生活力を活かした支援をしている。また地域のボランティアによる演芸が楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気と相談しながら、食事の買い物と一緒に出かけている。屋内庭園内は自由にホームから行き来でき、併設のデイサービスにも遊びにいける様に支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員や管理者は鍵かけの弊害を理解しており、日中は利用者・家族等関係者は自由に出入り出来る様に、鍵がかけられていない状態である。外出傾向が強い利用者には、生活のパターンを掴み、見守り等の配慮がなされていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練はビル全体で消防署と年2回定期的に行われており、利用者も参加している。非常災害時に備え、地域自治体と防災協定が結ばれており、地域からの協力も得られ一緒になって災害対策に努めている。		災害時の備蓄として水やカロリーの高いジュースを確保されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量は日々管理チェック・記録されており、食事のバランスも外注の業者からのカロリーを見ながら、主食や汁・付け合せを考え、利用者の一人ひとりの能力や習慣に応じた支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お料理の香りが漂う共有空間には、新聞や雑誌も置かれており、テレビのニュースや新聞を読んだり利用者には思い思いの時間を過ごしていた。不快音も無く、自然な光も天窓から差し込んで、程よい斜光で、居心地欲過ごせるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや椅子等を持ち込み、家庭的な雰囲気を大切にし、居心地よく過ごせるような工夫が出来る様に支援されている。		